

巻頭言「卓越した教育環境で「地球市民」の育成を」
創価大学 学長 馬場 善久 ……1

〔SPACE〕「能動的な学び」を徹底的にサポートするSPACEが誕生
総合学習支援センター長 西浦昭雄 ……2

〔GCP〕「ノーベル平和賞受賞者世界サミット」に世界青年代表団として参加 ……4

〔CETL〕FDセミナー報告、他 ……5

〔WLC〕Global Lecture Series、WLCポスター・コンテスト ……6

〔グローバル教育推進センター〕グローバル人材育成の取り組み ……7

第11回FDフォーラムのお知らせ ……8

学士課程教育機構・総合学習支援オフィス 職員の紹介 ……8

学生第一を具現化する中央教育棟が完成

卓越した教育環境で「地球市民」の育成を



創価大学 学長 馬場善久

本年、待望の「中央教育棟 GLOBAL SQUARE」が完成し（地上12階、地下3階）、9月4日に落成式が盛大に挙行されました。また後期の授業開始に合わせ、9月12日、同棟2階に、約2,000㎡の総合学習支援センター「ラーニング・コモンズ “SPACE（スペース）”」がオープンしました。

「GLOBAL SQUARE」の名称が意味するように、本建物は「地球市民」育成という本学の教育目標を象徴しています。本学は、第3回入学式で創立者が「創造的人間たれ」と呼びかけて以来、社会で価値を創造する人材の育成に取り組んで参りましたが、創立者は、さらに1996年コロンビア大学（アメリカ）での「『地球市民』教育への一考察」と題する講演において、地球規模で価値創造できる人間としての「地球市民」について言及され、「知恵」「勇氣」「慈悲」をその3要素として挙げられました。中央教育棟は、まさにこの創立者の理念を実現することを目的としたものであり、また、本学が開学以来モットーとしてきた「学生第一」という視点から構想設計されています。



中央教育棟 GLOBAL SQUARE

特に「ラーニング・コモンズ “SPACE（スペース）”」は、「学生第一」を象徴する施設です。学生のさまざまなニーズに応えるためにつくられ、学生の能動的・主体的学びをサポートするところです。グループ・ディスカッションやプレゼンテーションなどに活用できるLearning Arena（ラーニング・アリーナ）をはじめ、多様な協同学習に対応できるPeer Learning Zone（ピア・ラーニング・ゾーン）や各種ワークショップやコンサルテーションを提供するスペースなどが用意されています。Writing Centerでは、日本語・英語のレポートチューターサービスも提供しています。

また、語学学習をサポートし、実践的な語学力を磨けるワールド・ランゲージ・センターのSelf-Access Centerも同一空間内に統合しました。Chit Chat ClubやEnglish Forum、Global Villageでは、留学生との刺激に満ちたコミュニケーションを体験できます。さらに、図書館サービスの一部も提供しています。

事務体制も、情報システム部を含めた新しい部署である総合学習支援オフィスを同一空間内に配置し、教職員が一体

となって、学生の学びを総合的に支援するスペースをつくりました。学部生だけでなく、大学院生、留学生、さらに教職員も関わって、一人ひとりの考えや経験をいかしながら、互いの学びをサポートし合う共同の「場」となるように、多くの仲間とともに自由な発想で利用できる環境を整えています。

また、中央教育棟の各教室は、最新のマルチメディア設備を備えています。116ある教室の半数以上には可動式の机と椅子が配置され、協同学習や各種アクティブ・ラーニングにあわせて机・椅子の配置を自由にデザインできる

ようになっています。また学生ラウンジや多数の自習スペースなど、学生が自主的に学習できる空間も随所に設けられ、さらに1,000人収容できる「ディスカバリーホール」も備えられています。本学では、学生の主体的な学習の喚起にもっとも力を入れています。学習とは人生を豊かに生き抜くために必要なことであり、それゆえに学生一人ひとりが、この新たな学習環境で、自らの目的にむかって主体的に学習に取り組む、「自立した学習者」になっていくことを強く願っています。

昨年度、本学の語学教育や留学支援などの取り組みが評価され、文部科学省の「グローバル人材育成推進事業（特色型）」に採択されました。これを機に語学力を高めるプログラムが一層拡充されております。また、2014年4月には国際教養学部が開設され、グローバル時代における人材輩出のための新しいスタートが切られます。文化的に多様な背景をもった人々が集まる中で、卓越した語学力を有する地球市民の育成に一層力を注いで参ります。

中央教育棟 GLOBAL SQUARE」の完成によって創価大学のさらなる発展の舞台が整いました。学生、教職員一体となって、一人ひとりが“Discover your potential”の本学のステートメントそのままに、自らの無限の可能性を信じて、その力を引き出すために日々努力をしていきたいと考えております。2020年の開学50周年へ向け、人間教育の世界的拠点を目指し、本学における教育・研究の新たな伝統を築くために全力を尽くす所存です。

「能動的な学び」を徹底的にサポートする

SPACEが誕生

Student Performance Acceleration Center



オープニング



総合学習支援センター長 西浦昭雄

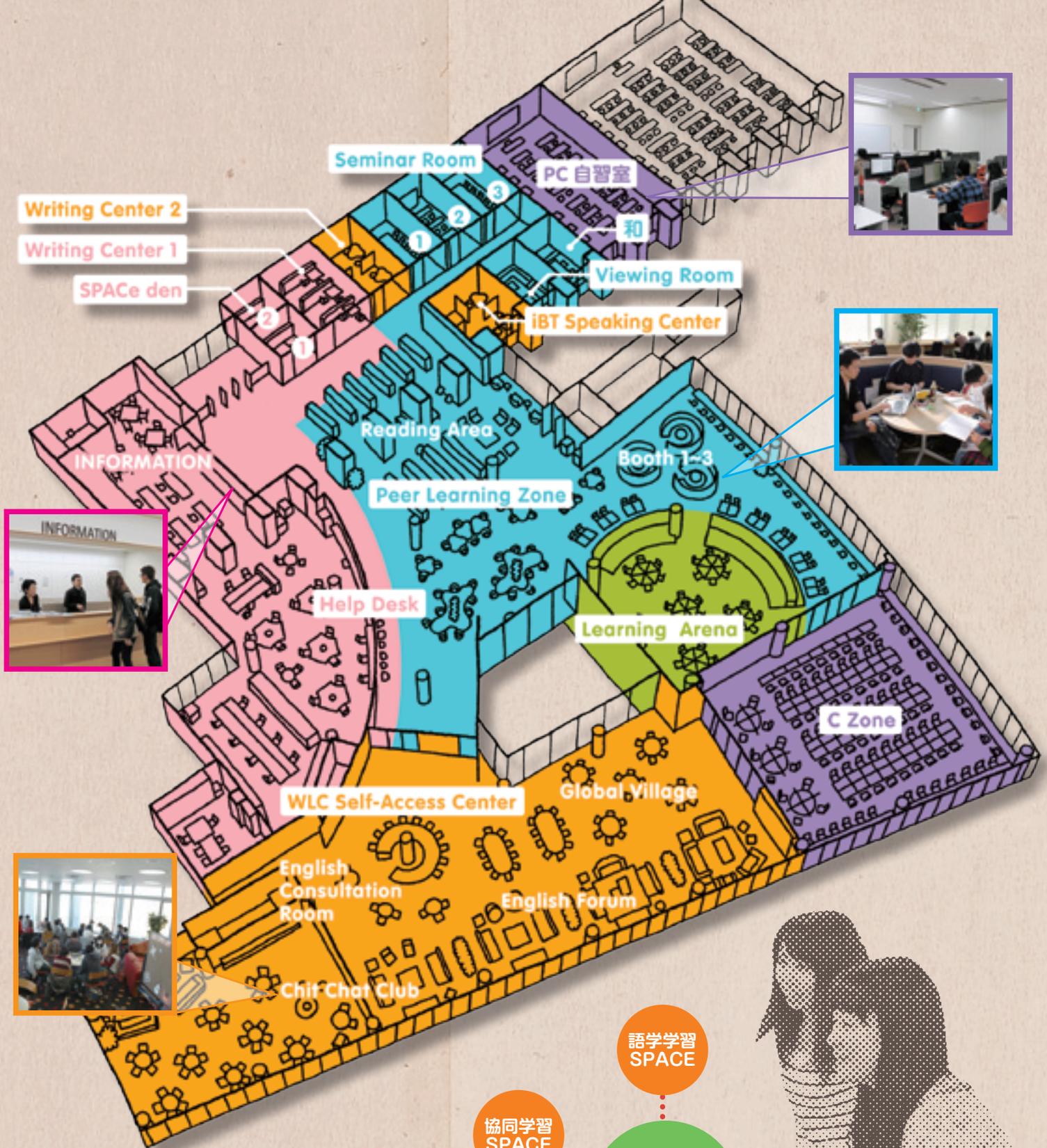
■この度、総合学習支援センターが学士課程教育機構内に設置され、図書館やWLC、さらにはシステム支援課等、様々な角度で学習支援に携わる部門や各学部と連携し、文字通り総合的な学習支援を提供することになりました。今後はCETL（教育・学習支援センター）が担ってきた各種の学習支援サービスはSPACEで提供されます。山崎めぐみ副センター長をはじめ総合学習支援オフィスのスタッフ、さらには院生・学生スタッフの皆さんと力を併せて創造性あふれる学習環境をつくっていきたくと決意しております。何卒宜しくお願い申し上げます。

■さて、2013年9月11日、「能動的な学び」を目指す中央教育棟を象徴する施設が中央教育棟2階に誕生しました。学生の「能動的な学び」を総合的にサポートするラーニング・commonsです。私達は、それを総合学習支援センター(Student Performance Acceleration Center)の英文表記の頭文字をとって、「SPACE（スペース）」という愛称をつけました。2000㎡という広大な空間に、協同学習、語学学習、自習・PC・学習相談スペースが凝縮されています。

■近年、日本の高等教育機関はアクティブ・ラーニングや能動的な学びを重視するようになり、その学習環境としてラーニング・commonsが注目されてきています。本学のラーニング・commons“SPACE”の

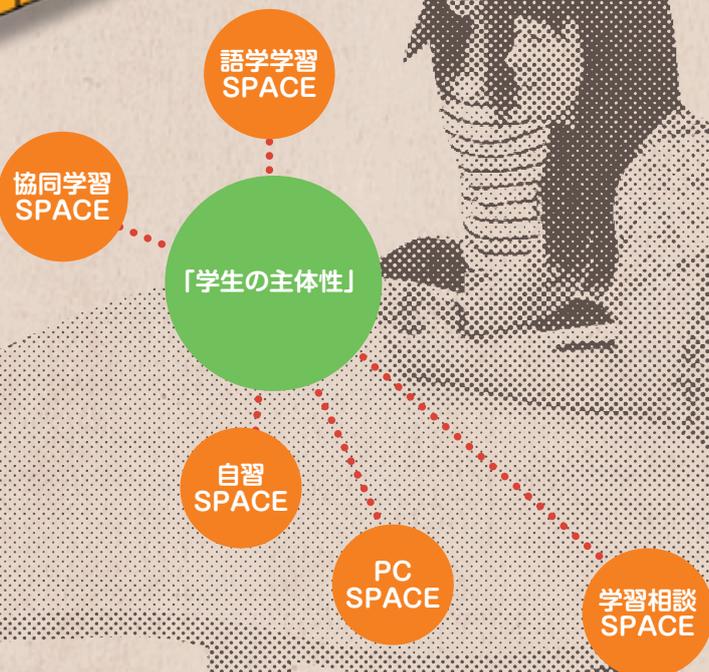
アリーナ風景





最大の特徴は、「学生の主体性」であると考えています。それを象徴するのが、平日の放課後に中央に位置する円形のラーニング・アリーナで展開する「シェア・タイム」です。これは、「皆が主役」を合言葉に、留学生、院生・学部生、教職員が30分の枠組みで1日あたり3~4件「学び」を報告・共有しあうもので、その企画・運営は学生ボランティアスタッフが主体的に行っています。また、ボランティアスタッフは専用のベストを着てSPACeが適切に使用されているかどうかを巡回するとともに、国内外の来客者に日本語や英語でSPACeを案内しています。また、SPACeでは学生の創造性や知的好奇心を高められるよう、バラエティあふれる机や部屋など工夫が至る所に見られます。

■開設して2か月が経ちました。自習室や語学学習エリアのみならずセミナールームなどのあらゆる協同学習エリアでグループ学習している姿が見られ、平日1日あたりの来場者は2000名前後で推移するなどSPACeが有効に活用されている印象を受けています。



「ノーベル平和賞受賞者世界サミット」に世界青年代表団として参加

GCPプログラムコーディネーター 佐々木 諭 (看護学部准教授)

2013年10月21日から23日まで、ポーランド共和国の首都ワルシャワで開催された「第13回ノーベル平和賞受賞者世界サミット」(以下「世界サミット」)に、グローバル・シティズンシップ・プログラム(GCP)学生、阿部未怜さん(法学部3年)、松本英之さん(法学部2年)、カーリー法流さん(文学部2年)、山内明美さん(文学部2年)の計4名が、世界青年代表団の一員として参加しました。

「世界サミット」は、ノーベル平和賞受賞者をはじめ受賞機関の代表らが一堂に会し、紛争や貧困など世界が直面する諸問題について議論し、それら問題の解決を促すことを目的に開催されています。GCP生の参加は2010年の広島における「第11回世界サミット」、2012年にシカゴで開催された「第12回世界サミット」に続き3回続けての参加となりました。

今回の「世界サミット」には、レフ・ワレサ・ポーランド元大統領、フレデリック・デ・クラーク南アフリカ元大統領、ダライ・ラマ14世、モハマド・ユヌス教授らが参加し、「平和のために連帯して立ち上がる-行動の時」をメインテーマに開催されました。「世界サミット」では、ノーベル平和賞受賞者によるパネルディスカッションとあわせ、世界青年代表団のためのワークショップも開催され、直接ノーベル平和賞受賞者らと意見を交わす機会も持つことができました。

モハマド・ユヌス教授の主催による「ソーシャル・ビジネス」をテーマにしたワークショップでは、ユヌス教授は、貧困撲滅におけるソーシャル・ビジネスの重要性について講義をされました。「社会貢献のビジネスを通して、人々が力を持ち、声にならない人々の声を声にしていくことが求められる。社会のシステムが不正を生み出しているならば、青年こそがその新たな仕組みを作り出す役割を担っている」と期待をかけられ、人間の持つ可能性を信じ、果敢に挑戦して欲しいと訴えました。

今回の「世界サミット」は、青年の役割と力への深い信頼を一貫して訴えており、パネルディスカッションやワークショップを通して、青年こそが次の平和の世紀を創りゆく存在であり、将来の平和を青年に託す以外にないとの強い期待を示されました。



モハマド・ユヌス教授に質問するGCP生

また、ノーベル平和賞受賞者であるベティ・ウィリアムズ史との出会いでは、GCP生らが、「民衆の一人一人の声を聞くことができる地球市民に成長し、平和のために貢献していきます」と声をかけたことに対し、ウィリアムズ史は一人一人を力強く励まされました。

嬉しいことにサミット終了後に、GCP生の真剣な学びの姿勢が高く評価され、2014年10月に南アフリカ共和国ケープタウンで開催される「第14回ノーベル平和賞受賞者世界サミット」にも創価大学生に是非参加して欲しいとの要請を受けています。



ベティ・ウィリアムズ史と交流を深めるGCP生

参加した学生からは、次のような感想が寄せられました。

■『青年の連帯』をテーマにしたセッションでは、各受賞者から青年への期待が込められたメッセージをいただきました。これからも代表団と連帯のための交流を続け、必ず、対話を通して世界の平和を構築していく人材に成長してまいります。(阿部未怜さん・法学部3年)

■3日間のサミットを通し、平和構築への宗教的・文化的差異を超えた交流そして対話の重要性を改めて実感しました。将来を担う各国からの学生との交流は世界の広さ、つまり多様性の中に生きることと、そして狭さ、即ち我々は同じ地球で共存していることを強く感じました。

(カーリー法流さん・文学部2年)

■世界サミットのすべての日程を無事に終えることができました。すべては、自分の力ではなく、日本で私たちの無事成功を祈ってくださった方々、一緒に参加したメンバー、引率の先生のおかげです。感謝の思いを忘れず、このサミットでの経験を日本に戻って力にしていこうと決意です。

(松本英之さん・法学部2年)

■受賞者の未来を担う青年に対する期待と同時に、私たちの世代の責任を実感しました。今まで以上に勉学に励み、今回のサミットで出会った友と切磋琢磨しあいながら、築いた友情を強固な連帯にし、必ず世界平和につなげてまいります。

(山内明美さん・文学部2年)

2013年度FDセミナー（前期）

◆第1回FDセミナー

講師：鈴木典比古先生（公益財団法人大学基準協会 専務理事）

4月26日（金）、公益財団法人大学基準協会の鈴木典比古専務理事を講師にお迎えし、「21世紀に向かう大学改革と教育の質保証—グローバル化における大学教育の質保証—」についてご講演頂きました。

講演では、現在の日本の大学教育が抱えている課題として①学生の主体的学修、②体系化されている教育課程、③全学的教育マネジメントとガバナンスの確立を取り上げ、それらの解決のために学士課程教育の質的転換が求められていることを強調されました。そして、シラバスの改善、GPA制度とナンバリング制度拡充の重要性など具体的な取り組みについてお話頂きました。

約60名の参加者からは、「今後何を指して教育支援をしていけば良いのか、指標となる知識を得ることができた」、「ナンバリングの目的、シラバスの目的が明確になった。学生の主体性を引き出す取り組みをさらに考えていきたい」、「全ての学生が無限の可能性を持っており、それを引き出す教育が重要であることを再認識した」等の声が多数寄せられました。



◆第2回FDセミナー

講師：山崎めぐみ先生（学士課程教育機構准教授）

6月14日（金）、山崎めぐみ准教授（学士課程教育機構准教授）が「SPACEの学習支援計画 ラーニング・コモンズとピアサポート」のテーマで、後期に運用が開始されたラーニング・コモンズ“SPACE”の設備、サービス、そして取り組みなどについての予告的なプレ研修会兼講演会を行いました（一部ワークショップ含む）。

教職員だけでなく、学部学生、大学院生も参加し、さらに外部の方も含めると、



40名を超える参加がありました。参加者からは、「ラーニング・コモンズの活用方法について、思っていた以上に様々な意見・アイデアが出て、興味深かった。是非、活気のあるコモンズにして頂きたい。」「ラーニング・コモンズでどのような活動をするのかという、中身がすごく練られていて、さすがだなと思った。大変参考になった。」等の声が寄せられました。

◆第3回FDセミナー

講師：関田一彦先生（教育学部教授、教育・学習支援センター センター長）

7月20日（土）、「ポートフォリオ評価の工夫」をテーマに、同日午前中に行われた新任教員研修会とも連動させて、本年度第3回FDセミナーが開催され、教育・学習支援センター長の関田一彦教授（教育学部）が講



師を担当しました。本セミナーでは、最近大きな話題になっている「大学教育の質保証」の有効な道具として活用できるポートフォリオの目的や実践方法について、ワークショップを取り入れながら学びあいました。

約20名の参加者からは、「自分の授業でぜひ取り入れたいと思った。ルーブリックに対する考えが変化した」、「教育におけるポートフォリオの活用について、考える機会となった。今回の学びを生かして、ぜひ活用していきたいと思う」等の声が寄せられました。

教職員向けCETLスキルアップセミナー2013夏を開催

7月30日～8月1日、「CETLスキルアップセミナー2013夏」を開催しました。セミナーの内容は、①効果的スピーチセミナー（講師：杉本薫 CETL特別センター員・米国NLP協会トレーナー）、②NLPコーチング集中セミナー（講師：同上）、③マインドマップ授業活用セミナー（講師：山下由美子 学士課程教育機構講師・ThinkBuzan公認インストラクター）、④スチューデントアドバイジングセミナー（講師：山崎めぐみ 学士課程教育機構准教授・ICC公認コーチ）の4つで、計30名以上の教職員が参加しました。



マインドマップ授業活用セミナー

Global Lecture Series, WLC ポスター・コンテスト

◆Global Lecture Series #03:

Mr. Yoshinobu Tatewaki, Senior Financial Control Specialist for the Asian Development Bank (ADB), on June 11, 2013

ワールドランゲージセンター（WLC）では、2013年度のGlobal Lecture Seriesの一環として、帯刀良信氏の講演会を開催しました。帯刀氏は本学の卒業生で、現在はアジアと太平洋地域の途上国における貧困削減に力を入れているアジア開発銀行で、上級財務管理官として勤務しておられます。「貧困と闘う理由」と題する今回の講演会には、学生・教職員合わせて約250名が参加しました。

帯刀氏はまず初めに、貧しかった学生時代に自らが経験したさまざまな苦勞について話され、その時の苦勞が目標を達成する原動力になったと語られました。次にさまざまな国際機関で働いた経験に言及され、とりわけ、KEDO 朝鮮半島エネルギー開発機構で、北朝鮮の核開発抑止のため
帯刀良信氏（アジア開発銀行 上級財務管理官）
の困難なプロジェクトに取り組んだ経験を語られました。ブレインストーミング・セッションでは、帯刀氏から学生に対し、「貧困とは何か」、「変化を引き起こす原動力は何か」、「将来成し遂げたいことは何か。（目標は何か）」などの問いが出され、答えを考えるよう求められま



した。最初の質問に対して帯刀氏は、貧困とは人権や個人の尊厳の否定であるとの回答を示し、重要な変革を行うためには、勇氣、信念、情熱が必要で、何よりも大切なのは、各自が「宿命」を「使命」に変えることであると訴えられました。その例として自らの人生を振り返られ、貧しく、惨めな学生であったかつての自分が、一生懸命努力しめくと決意し、さまざまな困難を乗り越えた結果、現在では自らの貧しさを乗り越えただけでなく、逆に貧困と闘う側に立っていると語られました。

帯刀氏の講義は、参加した学生に創価大学卒業後の進路を考えるヒントになるとともに、困難は成長する最大のチャンスであるとの励ましにもなりました。更に人類にとって有益な文化の開発についても語られました。今回の講演は学生に、強力な変革の力として英語が非常に重要であることに気付かせるチャンスを与え、同時に創価大学が掲げる指針の重要性を参加者が再認識する機会ともなりました。

◆WLC Poster Contest

昨年まで行われていた「WLC エッセイ・コンテスト」が刷新され、本年は、第1回目となる「WLC ポスター・コンテスト」が開催されました。テーマは、「Connections（つながり）：1人1人の行動は世界にどのような影響を与えるか」で、1名から最大3名での取り組みを応募条件として、5月～6月に募集を行いました。

個人で作成した創造力豊かな3作品のエントリーがあり、それらのポスターは、7月1日～5日までの5日間、A棟1階ロビーに展示され、審査されました。その結果、1名に金賞、2名に銀賞が贈られました。審査基準は、伝えたいメッセージを視覚的に表現できているか、またポスターに書かれた文章がどの程度見る人に情報を伝えられているかという2点でした。

今回のテーマを通して学生は、たとえ一人であっても、その行動が世界にポジティブな影響を与えられること、逆に1つの行動がネガティブな方向に影響を与えてしまう可能性もあることを考える契機となり、大成功に終えることができました。

本年のWLCポスター・コンテストは心躍るスタートを切ることができました。来年度もまた、常勤・非常勤のWLC教員をはじめ、多くの皆様からのご協力をいただき、さらなる成功を収めたいと願っております。

サム・ブルース、ロバート・ケラス、マルコム・ダガティー



金賞作品



銀賞作品



グローバル人材育成の取り組み

開学以来国際交流に尽力してきた本学の実績やグローバル人材育成の取り組みが評価され、2012年度に本学は文部科学省「グローバル人材育成推進事業」（特色型）に採択されました（特色型の採択は31大学。うち私大は15大学）。本ニュースレターでは、その取り組みと採択後の1年間の主だった取り組みを紹介します。



ESAの授業風景

◆海外修学体験機会の拡充

長期留学については、2012年度、交流大学との交換留学、デュアル・ディグリー・プログラム、認定留学、1セメスター留学、そして、私費留学（350名）を加えると、年間で717名が留学しました。本年は、1年未満の長期留学として新たにアテネオ大学（フィリピン）、成均館大学（韓国）

との新規交換留学が決定し、学生の派遣大学先を順調に拡充させています。

◆外国語力向上の取り組み

2009年から、本学では語学コミュニケーション能力に長けた人材のさらなる育成を図り、国際性豊かな世界市民の輩出を目的としてTOEIC730点相当以上の外国語力を持つ学生にシュリーマン賞を授与してきました。また学内で受験できる語学能力試験としてTOEIC-IP、TOEFL-ITP、TOEFL-iBT、中国語検定、中国語HSK試験などを積極的に実施しています。

外国語力向上の取り組み

年度		外国語力 (TOEIC730点相当以上)	海外留学経験者数
2012年度	目標	200	600
	実績	217	717
2013年度	目標	250	700
2014年度	目標	310	800
2015年度	目標	380	900
2016年度	目標	480	1000

そして、2012年度、本事業の目標値の1つである外国語力（TOEIC730点相当以上）を持つ学生が目標の200名を超えました。また、現時点ですでに、2013年度の目標も達成しています。

今年度はTOEIC-IP、TOEFL-ITPの受験費用を本学の補助により、一律1,500円とし、学生の語学力測定の機会を多く設けるとともに、TOEFL-iBTの学内での試験回数を昨年度より倍増させ、年6回開催することになりました。またTOEFL-iBTは受験料が高額であることから、学内で行うTOEFL-iBTについては学生1人に対して年間2回まで受験料の全額補助を行い、海外留学推進の一助としています。

引き続き、大学が一体となって学生の学習のサポートを推進し、グローバル人材育成の拠点としての役目を果たして参ります。

◆本事業の主な取り組み

採択後、「グローバル教育推進センター」（センター長：寺西宏友副学長、副センター長：田中亮平教務部長、小出稔国際部長）が学士課程教育機構内に設置され、各学部および事務局と連携した下記の6点の事業が展開されています。

1. 外国語による授業の拡大、海外諸大学との単位互換の拡充やデュアル・ディグリー制度の発展等を通じた国際的な質の保証を伴う学士課程カリキュラムの展開
2. 国際的に通用する水準の外国語運用能力を備えた人材を輩出できる語学教育システムの構築と整備
3. より多くの留学・海外インターンシップ・海外ボランティア等の海外修学体験機会の提供
4. 在学中の1セメスター以上の海外修学体験を容易にする制度の導入と就職支援体制の充実
5. 入試制度・教育交流事業・学寮施設・就業支援の改善と、情報発信の多言語化等を通じて、海外修学経験者や外国人留学生等の受入れ数を拡大し、キャンパスの国際化を推進
6. 以上の取組を支える外国語能力と海外体験を有する教職員の採用と育成

◆英語による2つの学部横断型プログラムの開講

英語による授業の全学的展開として、本学では本年4月から2つの学部横断型プログラム、すなわち、海外留学に必要な英語力（TOEFL iBT80 点以上）を養うための「English for Study Abroad (ESA)」（1年生対象）と就業力の向上につながる英語力（TOEIC 730 点以上）を身につけるための「English for Career Development(ECD)」（2年生後期と3年生前期の学生対象）を開講しました。ESAとECDはそれぞれ2科目で構成され、週2コマの集中科目で、今年度は226名が履修者しています（表1）。今後、本科目による語学力の伸び率を計測し、次年度以降に生かしていく予定です。

表1 2013年度ESAとECDの年間履修者

	前期履修者	後期履修者	年間合計
ESA	52名	32名	84名
ECD	76名	66名	142名

第11回創価大学FDフォーラムのお知らせ

12月14日(土)、第11回FDフォーラムを創価大学中央教育棟 AB102教室にて開催致します(主催:創価大学、後援:大学コンソーシアム八王子、全国私立大学FD連携フォーラム、学術・文化・産業 ネットワーク多摩)。

今回のテーマは「アクティブ・ラーニングと大学教育」です。

第1部「アクティブ・ラーニングを支援する本学の取り組み」では、後期にオープンした本学のラーニング・コモンズ“SPACE(スペース)”の設立経緯ならびに具体的活動を紹介いたします。

次いで、第2部「アクティブ・ラーニングを保証するカリキュラム設計」では、関西国際大学の濱名篤学長を講師としてお招きして「関西国際大学の取り組み」についてご講演頂きます。

なお、FDフォーラムの開催に先立ち、SPACE(中央教育棟2階)の見学会を開催します(12:30~13:00)。ぜひ、この機会にご見学頂ければ幸いです。

学外の方の参加も可能です。参加ご希望の方は、学士課程教育機構(seed@soka.ac.jp)宛てにご連絡下さい。

12月14日(土) 12:30~17:00 会場:中央教育棟AB102教室

12:00よりAB102教室前にて受付開始

12:30~13:00 ラーニング・コモンズ“SPACE”見学会 ※希望者のみ

13:20 学長挨拶

13:30 第1部 ■アクティブ・ラーニングを支援する本学の取り組み

15:00 第2部 ■記念講演「アクティブ・ラーニングを保証するカリキュラム設計」濱名篤関西国際大学学長

学士課程教育機構の紹介

本年後期、ラーニング・コモンズ“SPACE”が誕生しましたので、改めて機構の組織および教職員スタッフを紹介します。

学士課程教育機構(SEED)

機構長 寺西宏友(副学長・経済学部教授) 副機構長 西浦昭雄(SEED教授)

共通科目運営センター

センター長 寺西宏友(経済学部教授)

教育・学習支援センター(CETL)

センター長 関田一彦(教育学部教授) 副センター長 望月雅光(経営学部教授)

ワールドランゲージセンター(WLC)

センター長 田中亮平(教務部長・文学部教授)
副センター長 L.マクドナルド(WLC准教授) 副センター長 D.ササキ(WLC講師)

総合学習支援センター(SPACe)

センター長 西浦昭雄(SEED教授) 副センター長 山崎めぐみ(SEED准教授)

グローバル教育推進センター

センター長 寺西宏友(経済学部教授)
副センター長 田中亮平(文学部教授) 副センター長 小出稔(国際部長・法学部教授)

●他にグローバル・シティズンシップ・プログラム(GCP)の運営もしています

総合学習支援オフィス 職員の紹介

■総合学習支援オフィス 部長 斉藤 智
副部長 福島高善 池ヶ谷浩二郎

■学習支援課 課長 池ヶ谷浩二郎
副課長 賀佐見達雄
係長 斎藤康夫 山岸啓一
延々宣幸 長岡良子

ワールドランゲージセンター
部主事 中村清孝
谷川佳子 伊藤貴美子 三浦明子
アンディ・チョング 平野大作

システム支援課 課長 石橋博道
副課長 村松勇人 細田隆志 杉本政人
主任 伊藤光昭



創価大学

創価大学学士課程教育機構ニュースレター [SEED] 第6号
発行日 2013年12月10日
発行者 創価大学学士課程教育機構
〒192-8577 東京都八王子市丹木町1-236
<http://seed.soka.ac.jp/>



NEWS LETTER SEED